

小美玉市の歴史を知ろう 55

南坪貝塚

— 与沢の地に広がる縄文文化 —

令和3年7月、農耕以前の定住社会のあり方と複雑な精神文化を示す「北海道・北東北の縄文遺跡群」が新たな世界文化遺産に登録され、一万年以上前の日本人の暮らしに思いを馳せる機会になりました。

今回は、市内で確認されている縄文時代の貝塚の中から、南坪貝塚（与沢）を紹介します。

南坪貝塚 — 昭和60年の学術調査 —

南坪貝塚は梶無川流域にあり、旧橋小学校の南方に位置します。直径約100mの範囲内に、馬のひづめの形のように広がる地点貝塚が10か所近く見つかっています。

昭和60年（1985年）の学術調査で、地点貝塚3か所、地面を掘り下げて床面を作った竪穴建物跡2軒、縄文期の人骨3体などが確認されています。見つかった貝はハマグリが主で、サルボウ・シオフキも多くみられます。ウナギ、スズキなどの魚や、イノシシなどの獣の骨も見つかっています。縄文時代は温暖で海の水位

が上昇し、現在霞ヶ浦がある場所には内陸まで海水が流れ込み、大きな湾が広がっていました。このため、南坪貝塚からは海水性の貝や魚が多く確認されています。出土した土器は、約4000年前の縄文時代後期のものが中心で、中期や晩期の土器も一部含まれます。



地点貝塚調査(昭和60年)

縄文時代の暮らしと精神文化

南坪貝塚からは、縄文時代の生活道具や精神文化を示す遺物が出土しています。生活道具の中には、シカの角や骨でつくられた骨角器（釣針・ヤス）、網のおもりである土器片（土器片）

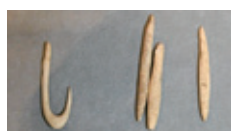
など、漁で使われた道具があり、人々が漁や狩猟による生活を送っていた様子がうかがえます。

一方、精神文化を示す遺物には、土製で人の形を表した土偶（顔部分）や、特徴のみみずく土偶（顔部分）や、ふくよかな脚部の土偶が見つかったり、その形から、土偶は再生や豊穣祈願のために作られたと考えられています。いつの時代も、祈りの気持ちは普遍的なものかもしれません。

※南坪貝塚の出土遺物は、小川資料館で常設展示されています。



南坪貝塚出土
みみずく土偶



南坪貝塚出土 骨角器
(左:釣針 右:ヤス)

令和3年の試掘調査

令和3年、開発計画に伴い遺構の有無を調べる試掘調査を行ったところ、竪穴建物跡や土坑とともに、地点貝塚が4か所発見されました。新たに見つかった貝塚は、昭和60年に発見されたものとは別の地点に位置します。周囲には、他にもまだ貝塚が眠っているとみられます。

「縄文人のゴミ捨て場」とも称される貝塚ですが、過去の生活の様子や精神文化、自然環境など、さまざまなメッセージを今に伝えてくれる歴史の宝箱でもあります。



地点貝塚確認(令和3年)

語句解説

貝塚 食料とした貝殻や土器などを捨てたものが、堆積した遺跡。

地点貝塚 窪みに貝殻などを捨てたものが集積した、小規模な貝塚。

遺物 過去の生活道具や人間の活動を表した資料。例:土器、石器、貝塚内の貝殻

遺構 過去の人類が生活していた痕跡が地中に残ったもの。例:建物跡、溝跡

土坑 発掘調査などで確認される遺構のうち、土を掘りくぼめてできた穴。

発掘!! いばらき2021

茨城県教育財団調査遺跡紹介展
小美玉市の3遺跡をはじめ、上境旭台貝塚(つくば市)などの出土品を展示します。

会期 2月27日(日)まで

場所 玉里史料館
(生涯学習センターコスモス内)

休館日 月曜日、2月11日(金)、23日(水)

問い合わせ 茨城県教育財団
☎029-225-6587

問い合わせ 小川図書館・資料館 ☎0299-58-5828

※展示内容は、今後の感染状況により変更となる場合があります。